

審 議 事 項

| 件名・議案 | 提案者 | 資料 (頁) | 提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載) | 説明者 | |
|-----------------|---|--------------------------------------|------------------------------------|--|--|
| I 審議事項 | | | | | |
| 1. 委員会関係 | | | | | |
| 提案1 | (機能別委員会) 科学者委員会 (1)分科会等委員の 決定(追加2件) | 科学者委 員会委員 長 | B(5) | 科学者委員会の分科会における委員 を決定する必要があるため。 | 三成副会 長 |
| 提案2 | (機能別委員会) 国際委員会 (1)分科会等委員の 決定(追加1件) | 国際委員 会委員長 | B(7) | 国際委員会の分科会における委員を 決定する必要があるため。 | 武内副会 長 |
| 提案3 | (分野別委員会) (1)運営要綱の一部 改正(新規設置1 件) (2)委員会委員の決 定(追加1件) | (1)臨床 医学委員 会委員長 (2)各部 部長 | B(9-11) | 分科会の新規設置に伴い、運営要綱 を一部改正するとともに、分野別委 員会における委員等を決定する必要 があるため。 | 会長 各部部长 |
| 2. 提言等関係 | | | | | |
| 提案4 | 提言「学協会に係る 法人制度一運用の見 直し、改善等につい て」について日本学 術会議会則第2条第 3号の「提言」とし て取り扱うこと | 科学者委 員会 | C(1-18) | 科学者委員会学協会連携分科会にお いて、提言を取りまとめたので、関 係機関等に対する提言として、これ を外部に公表したいため。 ※科学者委員会査読 | 科学者委 員会 学 協会連携 分科会 米田委員 長 |
| 3. 国際関係 | | | | | |
| 提案5 | 平成30年度代表派遣 について、実施計画 の追加、変更及び派 遣者を決定すること | 国際委員 会委員長 | B(13- 14) | 平成30年度代表派遣について、実施 計画の追加、変更及び派遣者を決定 する必要があるため。 | 武内副会 長 |

4. シンポジウム等

| | | | | | |
|------|--|--------------|----------|---|---|
| 提案6 | 公開シンポジウム 「Society 5.0に向けた産学共創のあり方」 | 科学と社会委員会委員長 | B(15-16) | 主催：日本学術会議科学と社会委員会政府・産業界連携分科会、一般社団法人日本経済団体連合会 日時：平成31年3月7日（木）14:30～17:00 場所：経団連会館5階パールホール | — |
| 提案7 | 公開シンポジウム 「再生可能エネルギー次段階の導入に向けて」 | 総合工学委員会委員長 | B(17-18) | 主催：日本学術会議総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会 日時：平成31年3月8日（金）13:30～17:00 場所：日本学術会議講堂 ※第三部承認 | — |
| 提案8 | 公開シンポジウム 「That's Interesting: ICT研究はどこに向かうのか」 | 電気電子工学委員会委員長 | B(19-20) | 主催：日本学術会議電気電子工学委員会通信・電子システム分科会 日時：平成31年3月11日（月）13:30～17:30 場所：日本学術会議講堂 ※第三部承認 | — |
| 提案9 | 公開シンポジウム 「「地理総合」で何が変わるか」 | 地域研究委員会委員長 | B(21-22) | 主催：日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会 日時：平成31年3月21日（木）9:00～15:00 場所：専修大学（生田キャンパス） ※第一部承認、第三部承認 | — |
| 提案10 | 公開シンポジウム 「21世紀社会における日本のエレクトロニクスを支える博士人材育成」 | 電気電子工学委員会委員長 | B(23-24) | 主催：日本学術会議電気電子工学委員会デバイス・電子機器工学分科会 日時：平成31年3月21日（木）13:00～17:00 場所：早稲田大学 西早稲田キャンパス 57号館201号室 ※第三部承認 | — |
| 提案11 | 公開シンポジウム 「学術から考える英語教育問題：CEFR、入試改革、高大接続」（仮） | 言語・文学委員会委員長 | B(25-26) | 主催：日本学術会議言語・文学委員会、日本学術会議言語・文学委員会文化の邂逅と言語分科会 日時：平成31年3月23日（土）13:00～17:00 場所：東京大学駒場キャンパス講堂（900番教室） ※第一部承認 | — |

| | | | | | |
|------|--|---------------|----------|--|---|
| 提案12 | 公開シンポジウム 「欧州一般データ保護規則 (GDPR) に対する日本の学術界の対応」 | 法学委員会委員長 | B(27-28) | 主催：日本学術会議法学委員会、日本学術会議法学委員会 I T 社会と法分科会 日時：平成31年3月27日（水）14:00～16:30 場所：日本学術会議講堂 ※第一部承認 | — |
| 提案13 | 公開シンポジウム 「スマート畜産：IoT・人工知能およびロボット技術の利活用」 | 食料科学委員会委員長 | B(29-30) | 主催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会、公益社団法人日本畜産学会 日時：平成31年3月28日（木）13:00～16:30 場所：麻布大学 百周年記念ホール（8号館7F） ※第二部承認 | — |
| 提案14 | 公開シンポジウム 「わが国の公衆衛生の重要課題を考える（仮題）」 | 健康・生活科学委員会委員長 | B(31-32) | 主催：日本学術会議健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会 日時：平成31年3月29日（金）13:00～17:00 場所：日本学術会議講堂 ※第二部承認 | — |

5. 後援

| | | | | | |
|------|--------------|----|---|---|----|
| 提案15 | 国内会議の後援をすること | 会長 | — | 以下の会議について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ①日本マイクロカウンセリング学会 <u>平成30年度学術研究集会</u> 主催：日本マイクロカウンセリング学会 期間：平成31年3月3日（日） 場所：アルカディア市ヶ谷私学会館 琴平の間 参加予定者数：約70名 申請者：日本マイクロカウンセリング学会会長 福原眞知子 ※第一部承認 ②土と肥料の講演会 主催：一般社団法人日本土壌肥料学会 期間：平成31年5月11日（土） 場所：東京大学山上会館 参加予定者数：約100名 申請者：一般社団法人日本土壌肥料学会会長 犬伏和之 ※第二部承認 | 会長 |
|------|--------------|----|---|---|----|

Ⅱ その他

| | 件名 | 資料 |
|----|---|-----|
| 1. | 今後の総会及び幹事会開催予定 次回幹事会は2月28日(木)13時30分開催 | 参考2 |
| 2. | 提言等にかかるSDGs関連項目の提出について | 参考3 |
| 3. | 危機対応科学情報発信組織準備委員会について | 参考4 |
| 4. | 報告「子どもの放射線被ばくの影響と今後の課題—現在の科学的知見を福島で生かすために—」に関する要望への対応について | 参考5 |

| |
|-----|
| 提案1 |
|-----|

【機能別委員会】

○委員の決定（追加2件）

（科学者委員会学術体制分科会）

| 氏名 | 所属・職名 | 備考 | 推薦 |
|-------|------------------------|-------|-----|
| 小安 重夫 | 国立研究開発法人理化学研究所理事 | 第二部会員 | 副会長 |
| 梶田 隆章 | 東京大学宇宙線研究所・教授 | 第三部会員 | 副会長 |
| 藤井 良一 | 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構長 | 第三部会員 | 副会長 |
| 岩崎 渉 | 東京大学大学院理学系研究科准教授 | 連携会員 | 副会長 |

（科学者委員会研究計画・研究資金検討分科会）

| 氏名 | 所属・職名 | 備考 | 推薦 |
|-------|-----------------------------|-------|-----|
| 山崎 典子 | 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授 | 第三部会員 | 副会長 |

提案2

【機能別委員会】

○委員の決定（追加1件）

（国際委員会Gサイエンス学術会議分科会）

| 氏名 | 所属・職名 | 備考 | 推薦 |
|------|------------------|------|----|
| 岩崎 渉 | 東京大学大学院理学系研究科准教授 | 連携会員 | |

分野別委員会運営要綱(平成26年8月28日日本学術会議第199回幹事会決定)の一部を次のように改正する。

| 改正後 | | | | | 改正前 | | | | |
|---------|---------------|--|----------------|-----------------------|---------|------|--------|-----|-----|
| 別表第1 | | | | | 別表第1 | | | | |
| 分野別委員会 | 分科会等 | 調査審議事項 | 構成 | 備考 | 分野別委員会 | 分科会等 | 調査審議事項 | 構成 | 備考 |
| (略) | (略) | (略) | (略) | (略) | (略) | (略) | (略) | (略) | (略) |
| 臨床医学委員会 | (略) | (略) | (略) | (略) | 臨床医学委員会 | (略) | (略) | (略) | (略) |
| | 臨床医学委員会感覚器分科会 | 1. 我が国の感覚器障害(者)の実態調査 2. 感覚器障害克服の方法・医療の実態調査 3. 上記(調査)結果を一般市民へ啓発する方法の検討に係る審議に関すること | 20名以内の会員又は連携会員 | 平成31年1月31日～平成32年9月30日 | (新規設置) | | | | |
| (略) | (略) | (略) | (略) | (略) | (略) | (略) | (略) | (略) | (略) |

この決定は、決定の日から施行する。

臨床医学委員会分科会の設置について

分科会等名：感覚器分科会

| | | |
|---|-------------------------------------|---|
| 1 | 所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。) | 臨床医学委員会 |
| 2 | 委員の構成 | 感覚器分科会は第22期では主に耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域、眼科領域から18名の委員で構成、第23期では17名の委員で構成されてきた。今期は上記領域の会員又は連携会員20名以内での構成を希望する。 |
| 3 | 設置目的 | <p>感覚器分科会は、感覚器障害の克服に向けた問題点を討議し、特に一般市民に向けて啓発することを目的として活動を行ってきた。</p> <p>我が国の人口の高齢化により、聴覚・視覚障害は認知症の発生要因の第3位に挙げられる(Lancet 2017)など、本障害の克服は喫緊の課題である。</p> <p>本分科会では感覚器障害(者)の実態に関する情報収集と新規治療法の発展の把握とその情報を、一般市民(患者)に市民公開講座などを通じて啓発する活動を行う。従来は感覚器障害の中でも視覚障害、聴覚障害に重点を置いてきたが、今後は嗅覚障害、味覚障害など幅広い感覚器障害と感覚器障害に付随するコミュニケーション障害にも取り組む予定である。</p> |
| 4 | 審議事項 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国の感覚器障害(者)の実態調査 2. 感覚器障害克服の方法・医療の実態調査 3. 上記(調査)結果を一般市民へ啓発する方法の検討に係る審議に関すること |
| 5 | 設置期間 | 平成31年1月31日～平成32年9月30日 |
| 6 | 備考 | ※事実上23期からの継続(本分科会は23期までは継続されてきたので24期も継続を希望する) |

【委員会及び分科会】

○委員の追加（追加1件）

（臨床医学委員会）

| 氏名 | 所属・職名 | 備考 |
|-------|---------------|------|
| 伊藤 壽一 | 滋賀県立総合病院研究所所長 | 連携会員 |

平成30年度代表派遣実施計画の追加・変更・派遣者の決定について

以下のとおり、平成30年度代表派遣実施計画の追加・変更・派遣者の決定を行う。

| | 会議名称 | 派遣期間 (会期分) | 開催地 (国) | 派遣候補者 (職名) | 内 容 |
|---|------------------------|--|------------------|---|---|
| 1 | 第73回国際地質科学連合理事会及び事務局会議 | 2月10日 ～ 2月15日 ↓ 2月25日 ～ 3月2日 | コロンビア ↓ 中国 | 北里 洋 連携会員 東京海洋大学海洋資源環境学部特任教授 | 派遣時期の変更 開催地の変更 |
| 2 | Gサイエンス学術会議 2019 | 3月24日 ～ 3月26日 | パリ (フランス) | 武内 和彦 第二部会員 公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長、東京大学 特任教授 | 代表派遣の追加 派遣者の決定 |
| 3 | Gサイエンス学術会議 2019 | 3月24日 ～ 3月26日 | パリ (フランス) | 岩崎 渉 連携会員 東京大学大学院理学系研究科准教授 | 派遣者の決定 ※実施計画については第260回 幹事会(平成30年2月22日)に て承認済み。 |
| 4 | Gサイエンス学術会議 2019 | 3月24日 ～ 3月26日 | パリ (フランス) | 辻井 潤一 特任連携会員 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 フェロー・ 人工知能研究センター 研究センター長 | 派遣者の決定 ※実施計画については第260回 幹事会(平成30年2月22日)に て承認済み。 |
| 5 | Gサイエンス学術会議 2019 | 3月24日 ～ 3月26日 | パリ (フランス) | 新福 洋子 特任連携会員 京都大学大学院医学研究科准教授 | 派遣者の決定 ※実施計画については第260回 幹事会(平成30年2月22日)に て承認済み。 |
| 6 | 第3回ISC 理事会 | 3月頃 | パリ (フランス) | 植松 光夫 連携会員 東京大学大気海洋研究所名誉教授 | 代表派遣の追加 派遣者の決定 |

| | | | | | |
|---|------------------|---------|----|-----|----------------------------------|
| 7 | IAP 総会/IAP-R 理事会 | 平成31年2月 | 韓国 | 未 定 | 代表派遣の取止め ※来年度に延期のため(4 月予定) |
|---|------------------|---------|----|-----|----------------------------------|

公開シンポジウム

「Society 5.0 に向けた産学共創のあり方」の開催について

1. 主催：一般社団法人日本経済団体連合会、日本学術会議科学と社会委員会政府・産業界連携分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成31年3月7日（木）14：30～17：00
5. 場 所：経団連会館5階パールルーム
6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：

デジタル革新と多様な人々の創造力の融合により、社会課題を解決し、価値を創造する社会が「Society 5.0」である。その実現に向けて、産業界と大学とがどのようなビジョンを共有し価値創造に取り組むべきか、これからの産学共創のあり方を考える。国立私立大学と経済界の代表がそれぞれ講演をし、その講演をもとにこれからの産学共創について議論する。

8. 次第

- | | | |
|-------------|------|--|
| 14：30－14：35 | 開会挨拶 | <u>山極 壽一（日本学術会議第二部会員・会長、 京都大学総長）</u> |
| 14：35－14：45 | 趣旨説明 | <u>渡辺 美代子（日本学術会議第三部会員・副会長、 科学技術振興機構副理事）</u> |
| 14：45－15：05 | 講演 | 「これからの産学連携～地方国立大学の視点から」 岡 正朗（山口大学学長） |
| 15：05－15：25 | 講演 | 「これからの産学連携～私立大学の視点から」 田中 優子（法政大学総長） |
| 15：25－15：45 | 講演 | 「これからの産学連携～産業界の視点から」 <u>五十嵐 仁一（日本学術会議特任連携会員、 経団連未来産業・技術委員会産学官連 携推進部会長、JXTG エネルギー株式会 社取締役常務執行役員）</u> |

15：45－16：00 （ 休憩 ）

16：00－17：00 パネル討論「Society 5.0に向けた産学共創のあり方」

（ファシリテーター）渡辺美代子（再掲）

（パネリスト）山極 壽一（再掲）

小林 傳司（日本学術会議第一部会員、
大阪大学理事・副学長）

五十嵐 仁一（再掲）

小林 いずみ（日本学術会議特任連携会員、
経済同友会副代表幹事、ANA ホ
ールディングス社外取締役等）

田中 優子（再掲）

岡 正朗（再掲）

司会進行：小川 尚子（日本経済団体連合会産業技術本部上席主幹）

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「再生可能エネルギー一次段階の導入に向けて」の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会
2. 共 催：公益社団法人日本工学アカデミー
3. 日 時：平成31年3月8日（金）13：30～17：00
4. 場 所：日本学術会議講堂 外1室
5. 分科会等の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

日本の再生可能エネルギー導入量は一次エネルギーの約8%、総発電量の約15%以上を占めるに至ったが、買取り価格の見直しや、電力系統への接続制約の顕在化等により、次段階の普及のための方策を考えるべき時に至っている。

大規模な風力・太陽光発電所と電力系統には、双方からの協調が求められる一方、中小規模の場合は、電力や熱の自家消費と省エネルギーへの貢献、災害時に向けた自立度向上等が新たな目標となる。また、運輸分野も再生可能エネルギーの大きな普及が期待できる分野である。

本シンポジウムでは、新たな段階の施策が求められている再生可能エネルギーの今後の導入について、住宅、ビル、工場、自動車などで進むゼロエミッション化に向けた最先端の取り組みを紹介し、地域特性を活かした例や成功の必要条件などについて議論する。

7. 次 第：

司 会

大久保 泰邦（日本学術会議連携会員、一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構
技術参与）

13：30 「シンポジウム趣旨説明」

柘植 綾夫（日本学術会議連携会員、公益社団法人日本工学会元会長・顧問）

13：40 「再生可能エネルギー一次段階の導入に向けて、現状と課題」

大和田野 芳郎（国立研究開発法人産業技術総合研究所名誉リサーチャー）

14：20 「建物一体型太陽光発電の普及に向けて（仮題）」

発表者交渉中

15：00－15：10 （ 休憩 ）

15：10 「地中熱利用の現状と展望」

赤井 仁志（国立大学法人福島大学共生システム理工学類特任教授）

15：50 「ゼロエミッション工場の実践事例（仮題）」

発表者交渉中

16：30 質疑応答

16：45 まとめ

大和田野 芳郎（国立研究開発法人産業技術総合研究所名誉リサーチャー）

17：00 閉会

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は主催分科会委員）

公開シンポジウム

「That's Interesting : ICT 研究はどこに向かうのか」の開催について

1. 主催：日本学術会議電気電子工学委員会通信・電子システム分科会
2. 共催：一般社団法人情報社会デザイン協会
3. 後援：一般社団法人電子情報通信学会、一般社団法人情報処理学会
4. 日時：平成31年3月11日（月）13：30～17：30
5. 場所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：デジタル変革により社会・産業・経済・地方が劇的に変わって行く。ICTはすべての産業分野に浸透し、新しい価値を創出する役割を担うことになる。このようなデジタルの時代を牽引するために、ICT研究はどこに向かうべきなのか、想いを語っていただく。
社会科学系には「That's Interesting!」という論文がある。産業界に影響を与える研究、心に残る研究、後世に残る研究などの視点からICT研究分野を発展させるために「That's Interesting!」の研究を創出していく方々からのメッセージである。
8. 次第：
 - 司会：佐古 和恵（日本学術会議連携会員、日本電気株式会社（NEC）技術特別主幹）
 - 13：30 開会挨拶
吉田 進（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）
 - 13：35 趣旨説明
森川 博之（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授）
 - 13：45 原田 博司（日本学術会議連携会員、京都大学大学院情報学研究科教授）
栄藤 稔（大阪大学先導的学際研究機構教授）
佐古 和恵（日本学術会議連携会員、日本電気株式会社（NEC）技術 特別主幹）
川原 圭博（東京大学大学院情報理工学研究科准教授）
益 一哉（日本学術会議連携会員、東京工業大学学長）
岡野原 大輔（Preferred Networks 代表取締役副社長）
 - 15：05－15：30 （ 休憩 ）
 - 司会：中野 美由紀（日本学術会議連携会員、産業技術大学院大学産業技術研究科教授）
 - 15：30 川村 龍太郎（日本電信電話株式会社サービスイノベーション総合研究所所長）
猿渡 俊介（大阪大学大学院情報科学研究科准教授）

稲見 昌彦（東京大学先端科学技術研究センター教授）（調整中）

釣谷 剛宏（KDDI 総合研究所トランスポートネットワークグループグループリーダー）

福田 敏男（日本学術会議連携会員、名城大学理工学部教授、IEE president-elect）

山中 直明（日本学術会議連携会員、慶応義塾大学理工学部教授）

17：10 総括・閉会

中村 元（KDDI 株式会社総合研究所副所長）

津田 俊隆（日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院教授）

仙石 正和（日本学術会議連携会員、事業創造大学大学院大学学長・教授）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「地理総合」で何が変わるか」の開催について

1. 主 催：日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会
2. 共 催：日本地理学会 地理教育専門委員会、災害対応委員会
3. 後 援：地理学連携機構（予定）
4. 日 時：平成31年3月21日（祝日・木）9：00～15：00
5. 場 所：専修大学（生田キャンパス）
6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：2022年度から高等学校の地理歴史科において、「地理総合」・「地理探究」が新設され、「地理総合」は「歴史総合」とともに必修修化となる。本公開シンポジウムでは、「地理総合」が導入されることによって、日本の地理教育はどのように変わるのかを議論する。そして、現場となる初等・中等教育だけでなく、教員養成を担う大学教育や関係省庁が取り組むべき様々な課題を整理し、新しい地理教育を今どのように推進すべきかを提案する。

8. 次 第：

第一部 09:00-10:00（地理教育専門委員会）

テーマ：「地理総合」とは何か？

（主担当：地理教育専門委員会）【井田仁康・秋本弘章・浅川俊夫】

9:00- 9:10 「地理Aとの違い—中高の連続性」（趣旨説明）

井田仁康（日本学術会議特任連携会員、筑波大学人間系教授）

9:10- 9:35 「地理総合の特質と実践—地図/GISに焦点を当てて」

河合豊明（品川女子学院教諭）

9:35-10:00 「地理総合の課題と支援—地図/GISに焦点を当てて」

秋本弘章（獨協大学経済学部教授）・鈴木瑛莉(ESRI ジャパン株式会社)

第二部 10:05-12:00

テーマ：「地理総合」と防災：何をどう教えるか？

（主担当：災害対応委員会）【久保純子】

10:05-10:20 「地理総合で防災がどのように扱われるか」（趣旨説明）

久保純子（日本学術会議連携会員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

10:20-10:35 「ハザードマップをどう扱うか」

南雲直子（国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター
専門研究員）

10:35-10:50 「地理院地図の活用法」

岡谷隆基（国土交通省国土地理院企画部研究企画官）

10:50-11:05 「自然地理的基礎をどう教えるかー課題と展望ー」

須貝俊彦（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）

11:05-11:20 「地理総合を教えられる教員をどう育てるか」

村山良之（山形大学大学院教育実践研究科教授）

11:20-11:35 「地理総合で教えるべき防災とは」

長尾朋子（東京女学館教諭）

11:35-12:00 総合討論

（司会）久保純子（日本学術会議連携会員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

<昼食>

第三部 13:00-15:00

テーマ：「緊急提言ー『地理総合』で何が変わるか」

（主担当：地理教育分科会）【矢野桂司・井田仁康】

13:00-13:05 「地理総合で何が変わるか」（趣旨説明）

矢野桂司（日本学術会議連携会員、立命館大学文学部教授）、

井田仁康（日本学術会議特任連携会員、筑波大学教授）

13:05-13:20 「汎用・基盤的データの存続と地理教育」

橋本雄一（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院文学研究科教授）

13:20-13:35 「『地理総合』におけるGISに関する教員研修・教育実習」

小林岳人（千葉県立千葉高等学校教諭）

13:35-13:50 「中学校から高等学校『地理総合』への接続」

青柳慎一（久喜市立栗橋西中学校教諭）

13:50-14:05 「中高接続を踏まえた高校地理教育の工夫」

須原洋次（龍谷大学文学部教授）

14:05-14:20 「『地理総合』における自然地理と防災」

鈴木康弘（日本学術会議連携会員、名古屋大学減災連携研究センター教授）

14:20-14:35 「『地理総合』における国際理解とは」

岡橋秀典（日本学術会議連携会員、奈良大学文学部教授）

14:35-15:00 総合討論

（司会）矢野桂司（日本学術会議連携会員、立命館大学文学部教授）

15:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認、第三部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「21世紀社会における日本のエレクトロニクスを支える博士人材育成」
の開催について

1. 主催：日本学術会議電気電子工学委員会デバイス・電子機器工学分科会
2. 共催：一般社団法人電子情報通信学会
3. 日時：平成31年3月21日（祝日・木）13:00～17:00
5. 場所：早稲田大学 西早稲田キャンパス 57号館201号室
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：持続可能な開発目標（SDGs）2030 アジェンダの達成には我が国のエレクトロニクス分野の果たす役割が大きい。IoT や AI 等の新技術の研究開発だけではなく、医療、環境エネルギー、安心安全といった様々な分野におけるエレクトロニクスの新展開が不可欠となる。その実現には、基礎研究によるイノベーションシーズの創出だけではなく、そのシーズを大企業での実用化やベンチャー起業等により社会実装に繋げていかなければならない。そのような研究開発の現場で活躍できる博士人材の育成が我が国の将来を決めると言っても過言ではない。本シンポジウムでは、産学連携による新しい博士人材育成に関して議論を深める。
8. 次第：
 - 13:00 シンポジウム趣旨説明
 中野義昭（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）
 - 13:10 「21世紀社会における日本のエレクトロニクスを支える博士人材育成について」
 天野 浩（名古屋大学工学研究科教授）
 平山 照峰（ソニー株式会社主席技監）
 寺林 稜平（名古屋大学工学研究科博士課程2年）
 森勇介（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科教授）
 鈴木 寛（東京大学大学院公共政策学連携研究部教授、慶應大学政策・メディア研究科教授・総合政策学部教授）
 - 14:50-15:00 （ 休憩 ）
 - 15:00 パネルディスカッション
 （司会） 川原田 洋（日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院基幹理工学部教授）

大橋 弘美（日本学術会議連携会員、古河ファイテルオプティカルデバイス株式会社技術統括部部長）

（パネラー） 中野 義昭（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

天野 浩（名古屋大学工学研究科教授）

平山 照峰（ソニー株式会社主席技監）

寺林 稜平（名古屋大学工学研究科博士課程2年）

森 勇介（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科教授）

鈴木 寛（東京大学大学院公共政策学連携研究部 教授、慶應大学政策・メディア研究科教授・総合政策学部教授）

長瀬 公一（株式会社東レ経営研究所特別研究員）

森重 丈二（株式会社リクルートキャリア シニアコンサルタント）

新垣 雅進（古河電気工業株式会社戦略本部人事部人材採用課課長）

貝原 輝則（東京農工大学グローバルイノベーション（GIR）研究院特任助教）

17:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「学術から考える英語教育問題：CEFR、入試改革、高大接続」（仮）の開催について

1. 主 催：日本学術会議言語・文学委員会、日本学術会議言語・文学委員会文化の邂逅と言語分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：東京大学教養学部英語部会
4. 日 時：平成31年3月23日（土） 13：00 ～17：00
5. 場 所：東京大学駒場キャンパス 講堂（900番教室）
（東京都目黒区駒場3-8-1）
6. 分科会等の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨：英語の大学入試改革にかかわる諸問題について、学術的な考察から得られる知見を広く共有すると同時に意見交換を行う場を提供し、理解を広める。
8. 次 第：

総合司会

伊藤たかね（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

13:00 開会の辞

松浦純（日本学術会議第一部会員、東京大学名誉教授）

13:10 シンポジウム開催の趣旨説明

伊藤たかね（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

13:30-16:50 パネルディスカッション

ファシリテータ 斎藤兆史（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

13:30 パネリストの発表

鳥飼玖美子（日本学術会議連携会員、立教大学名誉教授）

「複言語複文化主義から生まれたCEFR：その目的と理念」

石井洋二郎（東京大学理事・副学長、東京大学名誉教授）

「入試改革の理念と現実」

杉山剛士（前埼玉県立浦和高校長、現久喜高校参与）

「高校現場からみた高大接続改革と英語教育」

15:15 休憩

15:30 指定討論者のコメント・討議

指定討論者 林徹（日本学術会議連携会員、放送大学特任教授）

原田範行（日本学術会議連携会員、東京女子大学現代教養学部教授）

16:15 来場者との討論

16:50 閉会の辞

木部暢子（日本学術会議第一部会員、国立国語研究所副所長）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者等は、主催委員会等委員）

公開シンポジウム

「欧州一般データ保護規則（GDPR）に対する日本の学术界の対応」の開催について

1. 主 催：日本学術会議法学委員会、日本学術会議法学委員会 I T 社会と法分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 3 1 年 3 月 2 7 日（水） 1 4 : 0 0 ~ 1 6 : 3 0
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：

欧州において一般データ保護規則（GDPR）が 2018 年 5 月 25 日から全面適用され、EU 域内から日本を含む EU 域外に移転する個人データの取扱いについて原則禁止という厳しい規制が課されるとともに、EU 域内に拠点のない者によって EU 域内のデータ主体に対して物品またはサービスの提供が行われる場合にも、それが有償であるか無償であるかを問わず、GDPR が域外適用され、そのような場合に EU 域内に拠点のない個人データ管理者は EU 域内における代理人を指定しなければならないとされている。GDPR は企業のみならず、行政機関や研究機関、学協会などの様々な組織にも適用されることから、国際的な研究活動や研究交流活動を行っている学術組織には、どのように対応すべきかについてのとまどいも見られる。

日本の個人情報保護の状況が EU レベルであることを認定する十分性認定が 2019 年 1 月 23 日付けで行われたので、データの越境移転の手続はかなり緩和されるが、この十分性認定は、個人情報保護法が適用される民間組織についてのものであり、行政機関個人情報保護法や独立行政法人等個人情報保護法、個人情報保護条例の適用を受ける組織（国立大学法人など）については対象外とされている（総務省行政管理局情報公開・個人情報保護推進室平成 30 年 12 月 5 日付け事務連絡）。

このような状況の中で、GDPR の内容を正しく理解し、日本の学术界としてどのように対応することが適切であるかについて、GDPR に詳しい 3 人の専門家をパネリストに公開シンポジウムを開催し、参加者からの様々な疑問に答えることを目的とする。

8. 次 第：

14 : 00 開会あいさつ

松本恒雄（日本学術会議第一部会員、独立行政法人国民生活センター 理事長）

14 : 10 GDPR の概要と十分性認定について

佐脇紀代志（個人情報保護委員会参事官）

14 : 40 GDPR に対する日本の学協会・研究機関の実践的対応について

板倉陽一郎（弁護士、国立情報学研究所客員教授）

15：10 GDPR に対する欧州の学協会の対応状況について

鈴木秀美（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所教授）

15：20 会場からの質疑

16：20 まとめと閉会あいさつ

佐藤岩夫（日本学術会議第一部会員、東京大学社会科学研究所教授）

16：30 閉会予定

（質疑が多かった場合は多少伸びる可能性）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「スマート畜産：I o T・人工知能およびロボット技術の利活用」の開催について

1. 主催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会、公益社団法人日本畜産学会
2. 共催：日本畜産学アカデミー
3. 後援：伊藤記念財団
4. 日時：平成31年3月28日（木）：13：00～16：30
5. 場所：麻布大学 百周年記念ホール（8号館7F）
6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

本公開シンポジウムでは、「スマート畜産：I o T・人工知能およびロボット技術の利活用」を主題として、研究者および生産者からの事例報告を中心に、昨今注目を浴びている新たな畜産物生産システムを俯瞰する。とりわけAI・I o T技術の援用による畜産管理システムの現状を踏まえたうえで、これを有効利用している畜産経営主から生産現場の声をくみ上げることにより、指導者や生産者への各種技術の改善に寄与することが期待できる。

一方、本公開シンポジウムが企図している「スマート畜産」による生産システムは、畜産物価格のコスト上昇につながるものが懸念されている。当該増加コスト分は販売価格に上乗せ転嫁されることになるため、消費者の理解醸成が必須である。そこで（公社）日本畜産学会および日本学術会議が有する公益性を踏まえ、本公開シンポジウムでは一般市民も対象として、広く本邦畜産に対する関心と理解を深めることを目的とする。

7. 次第：

司会進行 柏崎 直巳（日本学術会議連携会員、麻布大学獣医学部教授）

13：00 開会の挨拶

寺田 文典（公社 日本畜産学会 理事長）

13：05 基調講演

座長 小澤 壯行（日本学術会議連携会員、日本獣医生命科学大学応用生命科学部 教授）

13：05～13：40

「畜産ビックデータの処理・活用による新しい畜産生産管理システムの展望」

大和田 勇人（東京理科大学 理工学部 教授）

13：40～14：15

「放牧型畜産への利活用：IT技術を活用した高度放牧管理システム」

後藤 貴文（鹿児島大学 農水産獣医学域 教授）

14：15～14：50

「ロボット搾乳・ハードナビゲータシステム導入による生産性の向上」

松下 寛（株式会社松下牧場 代表取締役）

14：50～15：25

「豚舎用洗浄ロボットの利活用」

松野 更和（農研機構 農業技術革新工学研究センター 総合機械化
研究領域 研究員）

15：25～16：00

「MIJーカメラを活用した牛肉質自動解析システムの開発」

口田 圭吾（帯広畜産大学 畜産学部 教授）

16：00～16：25

総合討論

座長 眞鍋 昇（日本学術会議第二部会員、独立行政法人家畜改良
センター理事）

16：30 閉会の挨拶

渡邊 誠喜（日本畜産学アカデミー 会長）

8. 関係部の承認の有無： 第二部承認

（下線の登壇者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「わが国の公衆衛生の重要課題を考える（仮題）」の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会
2. 共 催：全国公衆衛生関連学協会連絡協議会
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成31年3月29日（金）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

本シンポの目的の一つは、わが国の公衆衛生の重要課題を公衆衛生（パブリックヘルス）関連の学協会と議論し、認識を共有することにあります。公衆衛生関連の学協会を連合した組織に全国公衆衛生関連学協会連絡協議会（以下、全公連と略）があります。全公連は、その目的の一つを「日本学術会議との交流・相互協力を行い、学術研究の成果を社会に還元する諸活動と、国や社会に必要な提言や働きかけを行う」としています。現時点で、23の学協会が加盟しています。

このシンポでは、全公連加盟の学協会から推薦された会員が、それぞれの学協会が取り扱っているわが国の公衆衛生の重要課題を選んで発表を行います。学会活動の紹介ではなく、それぞれの学協会が当面する公衆衛生の重要課題に関して学術発表を行う予定です（来年度以降、残りの学協会も学術発表を行うこととしています）。

本シンポでは、本分科会と全公連との連携をはかることを第二の目的としています。全公連との連携を図ることで、日本学術会議の公衆衛生分野における情報発信力を増し、一般社会につながる公衆衛生の重要性を市民公開として提示する意義は大きいと考えております

8. 次第（予定）：

13:30～13:45 開会挨拶と日本学術会議の活動の紹介（公衆衛生を中心に）

秋葉 澄伯（日本学術会議第二部会員、鹿児島大学名誉教授）

13:45～14:10 大槻 剛（日本衛生学会理事長、川崎医科大学教授）

「環境医学研究からの社会応用：アスベストや珪酸の免疫影響研究を例として」

- 14:10～14:35 沢辺 京子（日本衛生動物学会学会長、国立感染症研究所昆虫医科学部部長）
「我が国の公衆衛生に関わる衛生害虫－その歴史と未来－」
- 14:35～15:00 祖父江 友孝（日本疫学会理事長、大阪大学大学院教授）
「がん検診における過剰診断について」
- 15:00～15:10 休憩
- 15:10～15:35 山野井 尚美（日本公衆衛生看護学会副理事長、岡山県保健福祉部）
「災害時の保健活動」
- 15:35～16:00 武見 ゆかり（日本栄養改善学会理事長、女子栄養大学教授）
「健康な食事・食環境の推進（仮）」
- 16:00～16:25 衛藤 隆（日本学校保健学会理事長）
「わが国の学校保健の今とこれから」
- 16:25～16:50 岡田 賢司（日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会委員長、福岡歯科大学総合医学講座小児科学分野教授）
「公衆衛生上有用と思われる予防接種について」
- 16:50～ 閉会挨拶
田高 悦子（日本学術会議連携会員、横浜市立大学大学院医学研究科教授）

9. 関係部の承認の有無： 第二部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）